

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国やタイで生産拡大の動きが広がる(Asia Weekly (12/24~12/28))

～中国景気の底入れなどがアジアの生産を押し上げている～

発表日:2012年12月28日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

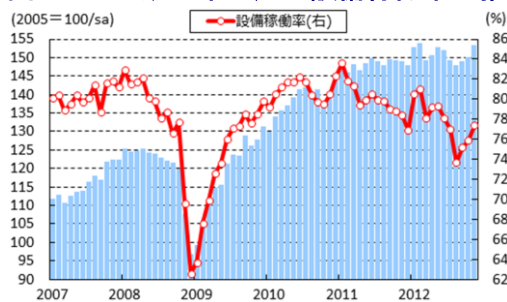
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/24 (月)	(シンガポール) 11月消費者物価 (前年比)	+3.6%	+3.8%	+4.0%
	(台湾) 11月商業販売額 (前年比)	+1.26%	+1.00%	▲0.68%
	11月鉱工業生産 (前年比)	+5.85%	+5.40%	+4.84%
12/26 (水)	(タイ) 11月輸出 (前年比/通関ベース)	+26.86%	+26.35%	+15.57%
	11月輸入 (前年比/通関ベース)	+24.53%	+22.50%	+21.61%
	(シンガポール) 11月鉱工業生産 (前年比)	+3.1%	+4.8%	▲5.1%
12/27 (木)	(タイ) 11月製造業生産 (前年比)	+83.30%	+68.00%	+36.02%
	(香港) 11月輸出 (前年比)	+10.5%	+3.3%	▲2.8%
	11月輸入 (前年比)	+9.0%	+2.6%	+3.3%
12/28 (金)	(韓国) 11月鉱工業生産 (前年比)	+2.9%	+0.8%	▲0.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】 ～中国景気の底入れなど外部環境の改善を反映して、製造業を中心に生産拡大の動きが広がる～

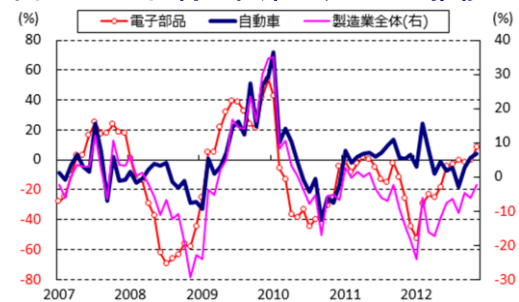
28日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+2.9%となり、前月(同▲0.8%)から2ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も+2.3%と前月(同+0.7%)から伸びが加速し、3ヶ月連続で拡大が続いており、中国景気の底入れなどを背景に足下の輸出が底堅く、幅広い分野で出荷・在庫バランスが改善していることも反映して堅調に推移している。平均設備稼働率も77.4%と前月(75.9%)から+1.5p上昇しており、先行きにおいては低迷が続いている企業の設備投資需要にも底入れの動きが広がることも期待される。

図1 KR 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 出荷・在庫バランスの推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【タイ】 ～アジア新興国の景気底入れを反映して輸出が堅調な中、生産は大幅な拡大が続いている～

26日に発表された11月の輸出額は前年同月比+26.86%となり、前月(同+15.57%)から加速した。前月比も3ヶ月連続で増加しており、中国やインドをはじめとするアジア新興国経済の景気底入れを反映して、これら向けが堅調に推移して全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+24.53%となり、前月(同+21.61%)から加速したものの、前月比は減少しており、洪水からの復興・復旧需要が一巡しつつあることに加えて、原油をはじめとする資源価格が調整していることも影響している。結果、貿易収支は▲14.54億ドルと前月(▲24.69億ドル)から赤字幅が縮小している。

27日に発表された11月の製造業生産は前年同月比+83.30%となり、前月（同+36.02%）から加速した。前年比の大幅な伸びは昨年の大洪水による生産停止の影響が大きく出ているが、前月比も+8.60%と前月（同+7.12%）に続いて拡大しており、足下の輸出の底堅さは生産を押し上げている。平均設備稼働率も68.56%と32ヶ月ぶりの高水準に達しているほか、自動車の出荷・在庫バランスも急速に回復していることから、しばらくは生産の拡大基調が続くと見込まれる。

図3 TH 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TH 製造業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TH 輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TH 自動車の出荷・在庫バランスの推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～インフレ率は低下する中、輸出の底堅さを反映して生産も堅調に推移している～

24日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+3.6%となり、前月（同+4.0%）から減速した。前月比は+0.21%と前月（同▲0.34%）から上昇に転じており、住宅関連や運輸・通信関連での上昇や、食料品など必需品価格の上昇が影響したものの、景気に対する不透明感を反映してサービス価格は低下しており、コア物価は落ち着いている。なお、国際金融市場の混乱一服などを受けて、通貨SGドル基調が強まっていることは輸入物価を通じて物価上昇圧力の緩和に繋がっており、原油をはじめとする資源価格の調整も相俟って物価安定に寄与している。

26日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+3.1%となり、前月（同▲5.1%）から4ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も+1.90%と前月（同+1.29%）に続いて拡大しており、同国の主要産業で月ごとの生産量の変動幅が大きい医薬・化学品関連が堅調に推移したことが影響している。なお、医薬・化学品関連を除いたベースでも前月比+0.64%と前月（同+1.08%）から伸びは減速したものの、2ヶ月連続で拡大しており、足下の輸出に底離れの兆しが出ていることも反映して生産は底堅く推移している。

図7 SG インフレ率の推移



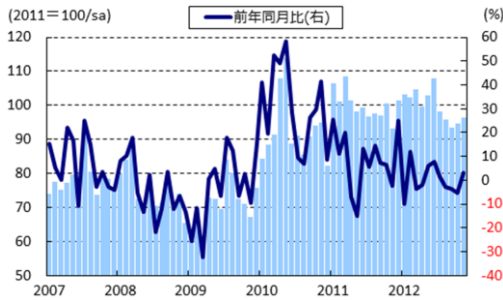
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 SG 実質輸出の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【台湾】 ～雇用改善の頭打ちにより消費の勢いは弱い中、外需の回復などを受けて生産は緩やかに拡大～

24日に発表された11月の商業販売額は前年同月比+1.26%となり、前月(同▲0.68%)から6ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も+0.55%と前月(同▲0.55%)から増加に転じており、小売売上高(同+0.19%)のみならず卸売上高(同+0.73%)も増加するなど、裾野の広い改善がみられる。ただし、小売売上高のうち食料品に対する支出は前月比▲0.32%と3ヶ月連続で減少しており、必需品需要に下押し圧力が掛かるなど、雇用の改善が頭打ちしていることを受けて、消費を取り巻く環境は依然として厳しい。

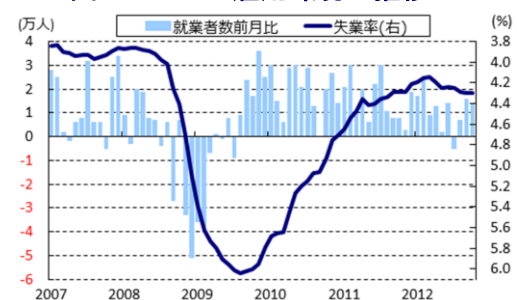
同日発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+5.85%となり、前月(同+4.84%)から加速した。前月比も+0.6%と前月(同▲1.0%)から増加に転じており、中国本土経済の底打ちや米国経済の堅調などを背景に輸出が底堅く推移していることを受けて、出荷・在庫バランスに改善の動きがみられることを反映している。なお、製造業部門では伸びの低迷が続いている一方、足下では世界的なカネ余りや金融市場の混乱一服により海外資金の流入圧力が高まっていることなどを受けて不動産価格は上昇しており、関連資材の生産拡大も生産を押し上げている。

図11 TW 小売売上高の推移



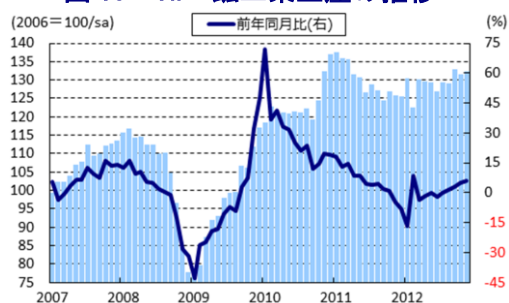
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 TW 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 TW 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図14 TW 出荷・在庫バランスの推移

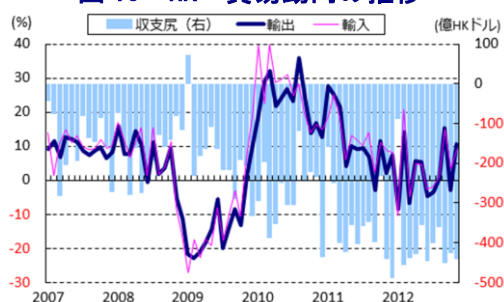


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港] ～中国本土の景気底離れや米国景気の底堅さなどを反映して、輸出は堅調な推移が続いている～

27日に発表された11月の輸出額は前年同月比+10.5%となり、前月(同▲2.8%)から2ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も増加しており、前月に落ち込んだ反動が出ていることに加えて、中国本土経済の底離れや米国経済の底堅さなども輸出を下支えしている。一方、輸入額も前年同月比+9.0%と前月(同+3.3%)から加速しており、底堅い内需や中国経済の堅調を反映して前月比も増加している。結果、貿易収支は▲440.71億香港ドルと前月(▲426.72億香港ドル)から赤字幅が拡大した。

図15 HK 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上